

平成 29 年 2 月 14 日

長岡市教育委員会（定例会）会議録

長岡市教育委員会

1 日 時 平成 29 年 2 月 14 日 (火曜日)

午後 2 時 15 分から午後 3 時 00 分まで

2 場 所 教育委員会 会議室

3 出席委員

教育長 高橋 譲 委 員 鷲尾 達雄 委 員 羽賀 友信
委 員 青柳 由美子 委 員 大久保 真紀

4 職務のため出席した者

教育部長	若月 和浩	子ども未来部長	波多 文子
教育部次長	金澤 俊道	教育総務課長	武樋 正隆
教育施設課長	中村 仁	学務課長	茂田井裕子
学校教育課長	竹内 正浩	子ども家庭課長	大矢 芳彦
保育課長	大野 宏	中央公民館長	水島 幸枝
中央図書館長	金垣 孝二	科学博物館長	小熊 博史
学校教育課主幹兼管理指導主事	宮 宏之	学校教育課主幹兼管理指導主事	高橋 和久
学校教育課主幹兼管理指導主事	柳沢 学		

5 事務のため出席した者

教育総務課長補佐	星野 麻美	教育総務課庶務係長	佐藤 裕
教育総務課庶務係	池澤 可名	学校教育課指導主事	山岸 力
学校教育課指導主事	淡路 弘幸	学校教育課指導主事	中島 稔

6 議事日程

日程	議案番号	案 件
1		会議録署名委員について
2	第4号	補正予算の要求について（3月補正予算）

7 会議の経過

（高橋教育長） これより教育委員会2月定例会を開会する。

◇日程第1 会議録署名委員について

（高橋教育長） 日程第1 会議録署名委員の指名を行う。会議録署名委員については、長岡市教育委員会会議規則第19条第2項の規定により、羽賀委員及び青柳委員を指名する。

◇日程第2 議案第4号 補正予算の要求について（3月補正予算）

（高橋教育長） 日程第2 議案第4号 補正予算の要求について（3月補正予算）を議題とする。これについては公表前であるので、非公開が適当ではないかと思うが、他の委員の方々はいかがか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

（高橋教育長） では、非公開とする。

————— 会議規則第20条第2項の規定により記録中止 —————

（高橋教育長） 以上をもって、本日の議案の審議は終了する。

（高橋教育長） 次に協議報告事項に入る。平成29年度長岡市教育委員会当初予算の概要については公表前であるので、非公開が適当ではないかと思うが、他の委員の方々はいかがか。

[「異議なし」と呼ぶ者あり]

(高橋教育長) では、非公開とする。

————— 会議規則第 20 条第 2 項の規定により記録中止 —————

(高橋教育長) 次に、「中野俣小学校統合に関する懇談会」実施報告について 事務局の説明を求める。

(茂田井学務課長) 中野俣小学校の統合に関する懇談会の会議報告をする。平成 29 年 2 月 8 日に西中野俣地区センターで懇談会を開催した。出席者は、各地区区長、役員、保護者を含む地域住民 25 名と教育長、教育委員会事務局 4 名、栃尾支所 3 名、中野俣小学校 2 名である。内容は、平成 28 年 12 月 1 日に提出された「中野俣小学校の統合に関する要望書」に対し、教育長より教育委員会の対応方針を説明した後、地域の方々と意見交換をした。まず、スクールバスをどのように運行をするのか、との質問には、子どもの安全を第一に考えてスクールバスを運行をし、乗降時間等詳細な運行方法は、今後、皆さんと協議をして決定をすると回答した。次に、統合先の栃尾南小学校は 300 人規模であり、統合するまでの交流活動をどうするのか、統合後にいじめなどがないだろうか、など地域の方から心配の声があがった。これについては中野俣小学校と栃尾南小学校がすでに協議を始めており、子どもたちの様子を見ながら、丁寧な対応を行っていく予定である。一年をかけて全学年が交流を行い、子どもたちの様子を保護者や地域の皆さんから見てもらいながら交流活動を進めていく。今後も地域の方の声をよく聞き、良い方向に進むように協議をしていく。

(高橋教育長) 質疑、意見はないか。

(青柳委員) スクールバスを利用する児童は、何名いるのか。

(茂田井学務課長) 平成 30 年度は、7 名である。

(高橋教育長) 中野俣小学校から、栃尾南小学校までは直線距離でどのくらいあるのか。

(茂田井学務課長) 直線距離では、5 km 程である。ただし、高低差があるので、道のりはもっとあり、車でも 20 分位かかる。すでに中学生は秋葉中学校に行くためにスクールバスを利用して、朝は同じくらいの時間に登校するため、これを

利用することになると考えている。帰りは時間が異なるため、子どもの時間に合わせた運行となる。

(青柳委員) すでにあるスクールバスを利用するのか。

(茂田井学務課長) 利用できるものについてはそのように考えている。来年度実施する交流活動では、スクールバスを使用するほどの人数でない場合、タクシーを利用することも想定している。

(鷲尾委員) これまでに、それぞれの小学校の児童が融和するような活動はあったのか。

(茂田井学務課長) これまでも中学校が一緒になるため、高学年になると中学校入学前の交流活動があった。低学年では、中野俣小学校と東谷小学校の小規模校同士の交流が主であったが、この度は統合の準備として、低学年の交流も図る予定である。中野俣小学校の児童が栃尾南小学校に行ったり、栃尾南小学校が杜々の森公園で活動がある時には、中野俣小学校の児童が説明などをして交流する予定である。

(鷲尾委員) 各小学校には、独特の伝統ある事業があると思うが、統合により何十年と行ってきた事業がなくならないようにと、保護者や地域からの要望はあるのか。あるのであれば、どのように対応をしていくのか。

(茂田井学務課長) 学校同士の話し合いでは、そのような要望が出ることも想定して、配慮をしながら進めているが、現時点では、地域の方からそのような要望はでていない。

(高橋教育長) 質疑、意見はないか。

(高橋教育長) 次に、長岡市におけるSNSトラブル防止の取組みについて事務局の説明を求める。

(山岸学校教育課指導主事) SNSの危険性や望ましい使用方法等について、子どもや保護者への啓発活動をすることと、啓発活動に関わる人材育成をすることの2点からプログラムを整理した。取組みの名称は、「長岡市SNSセーフティプログラム」とする。啓発活動プログラム、人材育成プログラムの具体的内容は別紙資料に記載している。平成29年度から新たに取り組むプログラムは、啓発活動プログラムとして3つあり、1つ目は、市P連事務局が昨年度作成した市P連ルールを啓発する標語コンテストである。3月発行の「市P連だより」で審査結果を発表し、

5月25日の連合会定期総会で表彰式を行う。2つ目は、入賞した啓発標語を学校に設置してある教育用パソコンの立ち上げ画面に配信することである。3つ目は、小中学校での情報モラル授業の定着を図るもので、市が導入している情報モラルNavi（授業案や資料等を提供）等を活用した情報モラル授業を各学年1回以上実施する。平成28年度中に各小中学校に取組みの通知文をだす。人材育成プログラムについては、平成29年6月21日に大久保委員を講師として教育センターの研修講座で情報モラル教育を実施し、その内容をDVDに編集して、各学校へ配布する。各学校では校内研修の補助資料として活用をしてもらう。また、市民（高校生・大学生含む）向けの講座として、平成29年10月にSNSの適切な活用の仕方を指導できる人材育成を目的とした研修を開催する予定である。広報活動としては、4月に長岡市ホームページにプログラム概要を掲載する。また、「市P連ルール啓発標語コンテスト」の表彰式を報道機関にリリースし、プログラム全体の取組みを市政だより（7月号）に掲載をして、広く市民に周知を図る。

（高橋教育長） 質疑、意見はないか。

（青柳委員） 長岡市セーフティープログラム啓発活動の資料で、子どもに対するプログラムはAからIと、保護者に対するプログラムは①から⑩で分けてあるのは何か理由があるのか。よくできているが、縦軸にばかり目がいき、同時期の子どもと保護者との横のつながりへ視線がいきにくく、わかりづらく感じる。

（山岸学校教育課指導主事） 下から発達段階を表した時系列の流れを、15年間をイメージして作成をした。指摘があったとおり、情報量がたくさんあり内容を理解するのに時間がかかる。どのような形がわかりやすいのか、指摘の点も踏まえてよりよい表示の仕方を考えて作成したい。

（大久保委員） 0歳から中学生までの継続的なプログラムは、他自治体でもなかなか例がないのではないかと。ぜひ、今後も継続して検討して活用してほしい。どんどん新しい問題が出てくるので、そういった情報も加えてほしい。また、親子のコミュニケーション、早寝早起きなど毎日の基礎となる生活習慣がとても重要である。他の事業とも連携を図り、実効性のあるものにしてほしい。

（羽賀委員） 飲食店で、子どもと入ってきたお母さんが一言も話さず、2時間くらいメディアを操作していた。人間としてなにか間違っていると感じた。子どもだけ

でなく、親にも啓発できるようなプログラムをやらないと、子ども自身に取り返しのつかない習慣を植え付けてしまう。メディアを使用しない時間をもっと充実させて、家族のコミュニケーションを図るように、強調してほしい。

(高橋教育長) 人材育成のDVDの作成内容は、教育センターでの研修講座を撮影したものなのか、学校に配布するように工夫をして作成をするのか。

(中島学校教育課指導主事) 教育センターの研修をベースとして、5分から10分くらいにまとめたものを作成する予定である。研修の内容で大事なところを編集して配る予定である。

(高橋教育長) 校内研修で活用の意味合いは、どのようなことか。

(中島学校教育課指導主事) 基本的には、職員研修に使用するもので、教職員が見ることを想定した内容である。

(高橋教育長) 他に質疑、意見はないか。

(高橋教育長) 以上で協議報告事項を終了する。

(高橋教育長) 次に、催し案内について事務局の説明を求める。

(金垣中央図書館長) 栃尾美術館で3月4日から3月26日まで、「館所蔵品展～春の展示～ふるさとゆかりの作家たち」を企画している。文化講座「椎茸人工栽培法の開発者 田中長嶺」を中央図書館で3月26日に開講する。田中長嶺は、長岡(旧三島郡上富岡村)に生まれた方で、菌の研究では全国的に有名な方である。亡くなったのが愛知県西尾市のため、そちらに資料や研究グループなどもある。近年は、長岡地域でも評価する声が上がっており、田中長嶺を研究している今井雄介氏から地元での活動を中心に講演する。

(高橋教育長) 人工栽培法とは、木をくり抜いて菌を植え付けた方法を発見した人なのか。

(金垣中央図書館長) 人工栽培法の研究をして、軌道にのせた。地元ではあまり知られていないが、農家の生活改善を考えた炭焼などの普及活動をした。長峰団地の開発をした人物でもある。

(小熊科学博物館長) 長岡藩主牧野家ゆかりのおひなさま展を2月16日から3月12日まで、科学博物館1階の企画展示室で開催をする。毎年開催をしており、旧長岡藩主牧野家伝来の雛人形を何組か展示する。越後長岡ひなものがたりと連携を

している。アオーレ長岡でも、西棟1階ホワイエで牧野家の雛人形の一部を展示する。2月26日にはひなまつりミニコンサートとして、展示室でひな人形に囲まれて箏作曲家 池田聡子氏が琴の演奏を行う。

(武樋総務課長) スポーツ振興課からの催し案内は、3月4日陣内貴美子&ヨネックスバドミントン教室と3月17日バレーボールフェスティバル開催である。

(高橋教育長) 次に、配布されたチラシについて、補足説明のあるものは挙手願う。

(大矢子ども家庭課長) はぐくみ長岡は、青少年育成センターの活動と青少年を取り巻く社会環境の実態調査の結果を記載したものである。「高校生活あれこれ」には、県立長岡聾学校と市立高等総合支援学校の様子を紹介した。最終頁には、青少年育成員として尽くされた表彰者2名を紹介した。

(高橋教育長) はぐくみ長岡は、どこに配布をしているのか。

(波多子ども未来部長) 市内の小・中学校と高校、公共施設や育成員などの関係者に配布をしている。

(高橋教育長) 他に報告事項はないか。

(波多子ども未来部長) 市長の記者会見時、予算発表とともに平成29年4月1日付け組織改正案の発表があり、子ども未来部に「青少年育成課」を設置する。現在、子ども未来部は、子ども家庭課と保育課の2課である。子ども家庭課から、青少年健全育成や児童館・児童クラブに関する業務をはじめ、就学後に関する業務などを分離・移管することで、就学前も就学後も子育て支援をよりきめ細かく対応できる体制を構築する。子育て支援体制の充実を図ることを目的として新しい課を設置する。これに伴い、双葉寮と青少年育成センターが青少年育成課の所属機関となる。

(高橋教育長) 組織ができて、これまで以上の仕事をするのが求められる。しっかりと取り組みたい。

(高橋教育長) 他に報告事項はないか。

[「なし」と呼ぶ者あり]

(高橋教育長) 以上で本日の定例会を閉会する。

会議の次第を記載し、その相違ないことを証するために署名する。

長岡市教育委員会教育長

長岡市教育委員会委員

長岡市教育委員会委員